

北海道港湾空港建設協会

会報

平成28年 9 月

北のみなと

No.89



— 目 次 —

Report

日本港湾空港建設協会連合会 第33回通常総会開催	1
--------------------------	---

受賞

平成28年春の褒章受章者 宮崎英樹会長が藍綬褒章を受章	2
平成28年春の叙勲受章者 榊草別組草別義昭会長が旭日双光章を受章	2
平成28年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰受賞者	3
平成28年度 北海道開発局優良工事等の表彰	4
平成28年度 北海道開発局港湾空港関係功労者表彰	7
平成28年度 各協会の表彰に関する記事	9
・(公社) 日本港湾協会企画賞表彰	
・(一社) 日本港湾空港建設協会連合会表彰	
・(公社) 日本港湾協会会長賞表彰 港湾功労者賞	
苫小牧港西港区 - 9 m耐震岸壁 全建賞の栄誉に輝く	10

各種記事

我が社の安全衛生管理 (株式会社 宮原組 土木部次長 江戸 敦)	12
私の趣味「マラソン挑戦から北海道新幹線開業記念函館マラソン開催まで」 (株式会社 富士サルベージ 須田新崇)	14

Topics

イベント

海上から「石狩湾新港北防波堤延伸工事」施工状況の説明会実施	16
人工地盤の新ふ頭 完成 ウトロ漁港で供用記念式典とりおこなう	18
第50回「おたる潮まつり」が開催	19
今年も小樽港でコンテナを活用した社会実験が実施されました	20
各港で舟漕ぎ大会、ボートレース開催 (釧路、根室、苫小牧、函館、室蘭、稚内)	21

Information

事務局だより	25
業界だより	25
広報委員会だより	25



ウトロ漁港は、北海道東部のオホーツク海に面した知床半島に位置する第4種漁港です。知床国立公園のオホーツク海側の玄関口となっており、多くの観光客が訪れます。平成17年には、本漁港が位置する「知床」が国内3番目となる世界自然遺産に登録されました。

ウトロ漁港では定置網漁業を中心とする沿岸漁業が盛んに行われており、特にサケ・マス漁は全国的にも有名です。また、近年では安全で高品質な水産物の提供、ブランド化の推進が求められています。

本漁港は、気象・海象の変化が激しい知床海域の緊急避難や北海道有数の水産基地としての役割を持つほか、地域の再開発、災害時の海上輸送基地としての役割も担っています。また、ウトロ地域は、地域マリンビジョンのモデル地域にも指定されており、地域と一体となった水産業の発展に努めていきます。

日本港湾空港建設協会連合会 第33回通常総会開催



日本港湾空港建設協会連合会の第33回通常総会は、平成28年5月11日（水）に東京都の明治記念館で全国より役員、代議員が出席し盛会裡に開催された。川嶋会長の挨拶に続き、石井国土交通省大臣の来賓祝辞があり、議事に移った。

議案は、平成27年度事業報告および収支決算、平成28年度事業計画（案）および収支予算（案）平成28年度事業計画（案）が提出・承認されたのち、任期満了に伴う役員の選任が行われた。役員の選任では川嶋康宏会長、宮崎英樹副会長が再選された。なお、総会后、来賓、会員等多数の方が出席されて情報交換会を開催した。

平成28年度 事業計画

1 会報の発行

港湾空港関係予算・技術開発等、港湾空港関係の諸情報ならびに会員の意見・要望等を掲載した会報を年4回発行し、会員相互の情報交換を行う。

2 研修講習会等の開催

港湾空港建設事業の社会的地位の確立と技術の開発向上を目的とした講習会及び見学会を実施する。講習会の開催は春、秋の2回中堅技術者を対象に東地区、西地区において実施し、11月中旬に経営者および幹部社員を対象に経営者ゼミナーを東京都において開催する。また「独占禁止法と暴力団排除条例について」の講習会を（一社）日本埋立浚渫協会と共催する。その他、ミニ研修会（行政）を協会会議室で随時開催する。

3 要望及び意見等の発信

- ①港湾空港関係予算及び港湾空港事業に関わる諸課題について、関係方面および関係機関に対して要望または意見交換を実施する。
- ②港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する要望や意見交換を、各地区連合会と共同して関係機関に対して実施する。
- ③都道府県協会が行う港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する関係機関との要望や意見交換を支援、共同して実施する。

4 調査研究

- ①港湾空港建設業の発展に関する調査研究および資料の収集等を行う。
- ②地区連合会技術委員会の活動経費に対して補助を行う。
- ③契約、設計、積算に関する調査研究。
- ④労働、安全、税制に関する調査研究。
- ⑤建設行政に関わる調査研究。

5 災害復旧・復興事業に対する協力・支援

東日本大震災に係る災害復旧・復興事業の一日も早い達成のため、協力・支援を行う。

6 港湾・空港プロジェクトの推進

国または地方公共団体における港湾空港プロジェクトの発掘・推進に関して、建設業の知見から協力・支援を行う。

7 港湾空港の整備・振興、港湾工事の推進に関する広報・啓発活動

- ①港湾および空港の整備・振興ならびに港湾工事の推進に関し、広く社会一般の理解を得、支持されるための広報・啓発活動を行う。
- ②①と同様、国政の場に反映するため、国内港湾活動の実態や建設工事現場等の視察等を通じ、関係国会議員等の理解・支援を深耕する活動を展開する。

平成28年春の褒章受章者 当協会宮崎英樹会長が藍綬褒章を受章

平成28年春の褒章受章者が「昭和の日」の4月29日に発令され、北海道港湾空港建設協会の宮崎英樹会長（岩倉建設株式会社社長）が藍綬褒章を受章した。

宮崎英樹会長は、昭和40年以来、長きにわたり建設業に従事するとともに、港湾関係に関連する各種団体の役員を歴任し、港湾建設事業の振興に尽力していることが高く評価された。



宮崎 英樹 氏

生年月 昭和15年11月

学 歴	昭和40年 3 月	青山学院大学経済学部 卒業
職 歴	昭和40年 4 月	株式会社岩倉組入社
	昭和55年12月	岩倉建設株式会社 監査役
	昭和62年12月	同社 取締役
	平成 5 年12月	同社 代表取締役社長 現在に至る
団体歴	平成 8 年 7 月	全日本漁港建設協会 北海道支部 副会長
	平成 9 年 5 月	社団法人室蘭建設業協会 理事
	平成14年 5 月	社団法人苫小牧建設協会 会長
	平成17年 4 月	社団法人日本海上起重技術協会 北海道支部長
	平成17年 5 月	社団法人日本海上起重技術協会 副会長
	平成20年 4 月	北海道港湾空港建設協会 会長
	平成20年 5 月	日本港湾空港建設協会 副会長
	平成22年10月	特定非営利活動法人北海道航空・港湾研究会 代表 現在に至る
賞 罰	平成12年 5 月	日本港湾空港建設協会連合会会長表彰
	平成17年 5 月	社団法人日本港湾協会会長表彰（港湾功労）
	平成18年 7 月	国土交通省北海道開発局長表彰（港湾空港関係功労）
	平成24年 7 月	国土交通大臣表彰（海事関係功労）

平成28年春の叙勲受章者 (株)草別組草別義昭会長が旭日双光章を受章

平成28年春の叙勲受章者が発表され、(株)草別組の草別義昭会長が建設業振興功労で旭日双光章を受章した。

草別義昭会長は、長年にわたり建設業に従事する傍ら、建設業の振興、発展、建設従事者の雇用環境改善に多大なる尽力が高く評価された。



草別 義昭 氏

生年月 昭和12年 2 月

学 歴	昭和34年 3 月	法政大学工学部土木工学科 卒業
職 歴	昭和34年 4 月	株式会社草別組 入社
	昭和37年 5 月	同社 取締役
	昭和43年 2 月	同社 代表取締役
	昭和43年 2 月	北興コンクリート工業株式会社 代表取締役社長
	昭和63年 6 月	同社 代表取締役会長
	平成21年 5 月	同社 代表取締役社長 現在に至る
	平成23年12月	株式会社草別組 代表取締役会長 現在に至る
団体歴	昭和50年 4 月	岩内建設業協同組合 代表理事
	平成25年 1 月	(一社)北海道水産土木協会会長 現在に至る
賞 罰	平成 3 年 8 月	内閣総理大臣褒状（公益奉仕の功績）
	平成 7 年 7 月	建設大臣表彰（建設事業の振興に貢献）
	平成 8 年11月	黄綬褒章（建設業の発展に尽力）
	平成13年11月	厚生労働大臣表彰（建設雇用改善の功績）
	平成15年 5 月	農林水産省水産庁長官表彰（漁港漁場整備事業の振興）

平成28年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰受賞者

水産庁の平成28年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰で、道内からは酒井建設㈱（本社：新ひだか町 酒井芳宏社長）が農林水産大臣表彰、葵建設㈱が水産庁長官表彰にそれぞれ輝いた。両者の卓越した技術力と業績をたたえ、このほど表彰式が水産庁長官室で執り行われ、晴れの栄に浴した。

同表彰は、高い技術力と優れた施工管理で、他の模範となる成果を残した請負者を顕彰することで、円滑な事業の推進につなげることを目的に実施している。

農林水産大臣表彰



酒井建設㈱
酒井 芳宏 氏
代表取締役社長

会社概要

本社所在地	新ひだか町
創業	昭和25年
設立	昭和26年
資本金	9,000万円

水産庁長官表彰



葵建設㈱
山中 博 氏
代表取締役社長

会社概要

本社所在地	釧路市
創業	昭和26年
資本金	9,980万円

平成28年度 北海道開発局 優良工事等の表彰

工事成績評定が特に優秀なほか、創意工夫に努め、技術の向上に顕著な成果などを挙げた企業と技術者に対して、局長及び部長表彰を授与

北海道開発局は7月25日、札幌第1合同庁舎で平成28年度優良工事等局長表彰の授与式を行った。平成27年度に完成した工事1,424件の中から局長表彰工事29件（30社）が選定され、工事を施工した企業と、その工事に携わった技術者に、今日出入北海道開発局長から表彰状が授与された。

港湾・空港・漁港部門における局長表彰は、①（株）吉本組が施工した「寿都漁港外1港物揚場改良工事」②釧石工業（株）が施工した「釧路港新西防波堤上部その他工事」③（湧）西村・中田経常JVが施工した「サロマ湖漁港航路浚渫工事」の3件（4社）が受賞した。

開発建設部長表彰は、函館（（株）松本組）、室蘭（北興工業（株）、あおみ・機械開発北旺・谷開発経常JV）、釧路（村井・山田経常JV）、留萌（三協建設（株））、稚内（安田建設（株））が受賞した。

— 港湾・空港・漁港部門における受賞工事 — 【北海道開発局長表彰】

○工事名：寿都漁港外1港物揚場改良工事

発注者：小樽開発建設部

施工者：（株）吉本組

技術者：



梅澤 稔彦 氏



〔表彰理由〕

本工事は、寿都漁港と岩内港の陸路で約40km離れた2カ所の遠距離現場であった他、寿都漁港工事箇所は、航路に面する等、狭隘な作業エリア、周辺に旅館・魚市場等があり、騒音・振動対策が必要等、厳しい現場条件下でありました。このような中、点在する現場毎に担当技術者を配置。監理技術者が毎日全ての現場を巡回し現場管理を行い、寿都漁港の狭隘な作業エリアでは床掘法肩部に大型土のうを設置。法面保護及び作業足場を確保して安全性向上と作業幅の縮小を図り、旅館営業やセリ等の時間帯は取壊し作業の休止やゼロバイブロを用いる等環境対策として騒音・振動を抑制。加えて港周辺での寿都神社例大祭等に積極的に参加し、公共事業のイメージアップにも貢献しました。こうした工程・品質・安全管理を各種の創意工夫によって克服し、高品質な構造物を完成させたこと及びソフト面の取り組みは他の模範になるものでした。

○工事名：釧路港新西防波堤上部その他工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：釧石工業㈱

技術者：



船越 一智 氏



〔表彰理由〕

本工事は、施工箇所が波浪の影響を強く受け、事業期間の制約から沖側及び背後に隣接工事が輻輳し、狭隘な作業条件から施工機械及び施工方法に制約を受ける工事です。新西防波堤G部では、上部背後が隣接工事箇所となっており、護岸B部では、沖側及び上部背後に隣接工事が輻輳しているところ、背後工事と綿密に工程を調整して施工を行うとともに、沖側の隣接工事とも施工期間の調整も行い、工期内に工事を完成させました。

また、品質向上のためのコンクリートの初期養生工法「GETTキュア」の使用、環境及び安全性に配慮した省エネ油圧システムTRIAS搭載油圧ショベル、後方監視カメラ搭載油圧ショベルの使用など創意工夫を行いました。以上から、厳しい施工条件にもかかわらず、安全及び施工管理に留意して施工を行い、無事故で工事を完了したことは高く評価でき、他の工事の模範となるものでした。

○工事名：サロマ湖漁港航路浚渫工事

発注者：網走開発建設部

施工者：(湧)西村・中田経常JV

技術者：

山田 寛和 氏
(西村組)古山 真嗣 氏
(中田組)

〔表彰理由〕

第2湖口の埋塞により漁船航行が不能となり、湖内水質環境の悪化が危ぶまれる中、早期着手に向けた事前準備を進め、契約締結翌日には陸上クレーンを配置し航路掘削に着手、4月中旬にはグラブ浚渫船2隻による海上浚渫にも着手しました。当該箇所は波浪が直接作用し、潮流の影響で作業時間が限定される非常に厳しい現場条件に関わらず、日々海象情報入手し、日の出前から浚渫準備を開始するなどして最大限の作業時間を確保するための施工体制を構築しました。これらの対応により、5月中旬からのホタテ稚貝放流までに漁船航行に必要な水深を確保、オホーツク地域でのホタテ生産活動への影響を最小限にとどめ、地元漁業関係者からも高く評価されました。

【各開発建設部長表彰】

- 工事名：江良漁港西防波堤改良工事
 - 発注者：函館開発建設部
 - 施工者：松本組(株)
 - 技術者：坂本 悟 氏
- 工事名：室蘭港絵鞆地区防波護岸改良その他工事
 - 発注者：室蘭開発建設部
 - 施工者：北興工業(株)
 - 技術者：安藤 敏 氏
- 工事名：苫小牧港西工区岸壁西－9 m改良工事
 - 発注者：室蘭開発建設部
 - 施工者：あおみ・機械開発北旺・谷開発経常JV
 - 技術者：川上 隆史 氏（あおみ建設）、北野 泰輔 氏
（機械開発北旺）、成田 安朗 氏（谷開発）
- 工事名：根室港（花咲地区）外1港岸壁改良その他工事
 - 発注者：釧路開発建設部
 - 施工者：村井・山田経常JV
 - 技術者：奥瀬 智也 氏（村井建設）、
上島 泰行 氏（山田組）
- 工事名：羽幌港外1港建設工事
 - 発注者：留萌開発建設部
 - 施工者：三協建設(株)
 - 技術者：南波 聡 氏
- 工事名：宗谷港外2港建設工事
 - 発注者：稚内開発建設部
 - 施工者：安田建設(株)
 - 技術者：田村 勇治 氏

平成28年度 北海道開発局 港湾空港関係功労者表彰

北海道開発局は7月19日、札幌第1合同庁舎で本年度の「港湾空港関係功労者表彰」および「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の表彰式を行い、笹島隆彦港湾空港部長が賞状を授与した。

この表彰は、港湾空港整備事業の推進を目的として、港湾空港関係の業務等に関し、功労のあった方々を対象に平成18年度から実施している。

今年度の功労者表彰は、谷開発株式会社（浦河町）代表取締役 佐藤 興氏、株式会社南組（様似町）代表取締役社長 南 修氏、矢口港湾建設株式会社（北斗市）代表取締役 矢口 政則氏の3氏が受賞した。また、海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰では、「石狩湾新港企業団地連絡協議会（会長 阿部 仁）」が受賞した。

笹島部長は賞状授与後のあいさつで「港湾・空港は地域の産業、生活を支える重要なインフラ。事業の推進には皆さんの協力が必要」と感謝するとともに、今後のさらなる活躍に期待を寄せた。



北海道港湾空港建設協会 推薦
 (一社) 日本海上起重技術協会北海道支部 推薦
 全国浚渫業協会北海道支部 推薦



谷開発株式会社 代表取締役

佐藤 興 氏

生年月 昭和20年2月

略 歴

昭和53年4月	谷開発株式会社	入社	
昭和62年12月	同上	常務取締役	就任
平成9年6月	同上	専務取締役	就任
平成11年5月	同上	代表取締役	就任
現在に至る			

北海道港湾空港建設協会 推薦
 (一社) 日本海上起重技術協会北海道支部 推薦



株式会社 南組 代表取締役社長

南 修 氏

生年月 昭和21年6月

略 歴

昭和48年4月	株式会社南組	入社	
昭和60年6月	同上	取締役	就任
平成16年7月	同上	代表取締役社長	就任
現在に至る			

(一社) 日本潜水協会札幌支部 推薦



矢口港湾建設株式会社 代表取締役

矢口 政則 氏

生年月 昭和28年11月

略 歴

平成元年3月	有限会社ヤグチダイバー設立	代表取締役	就任
平成7年10月	ヤグチダイバー株式会社に組織変更		
平成18年5月	矢口港湾株式会社に社名変更		
現在に至る			

平成28年度 (公社)日本港湾協会企画賞表彰

「シビルエンジニア廣井勇の人と業績」が企画賞を受賞。

我が国の明治・大正を代表するシビルエンジニアである廣井勇工学博士の生涯を詳細に描くとともに、廣井波力式や耐海水性コンクリートの研究により我が国初の日本人技術者による小樽港北防波堤の建設を成し遂げるなど、日本の近代港湾工学を確立した博士の業績の意味や価値を明らかにし、世界の工学歴史に位置づけている事が認められ受賞となった。



関口 信一郎 氏

生年月 昭和25年11月

日本データーサービス(株)
顧問

略 歴

昭和51年 北海道開発局
平成15年 室蘭開発建設部長
平成17年 港湾空港総合技術センター 常務理事兼北海道支部長
平成19年 日本データーサービス(株) 取締役副社長
平成28年 日本データーサービス(株) 顧問
現在に至る

平成28年度 (一社)日本港湾空港建設協会連合会表彰

北海道港湾空港建設協会から藤田幸洋氏が受賞

経営の合理化、工費の適正化、技術の向上、作業の効率化、従業員の労務・厚生改善等で協会の発展に尽くした功績を顕著として、平成28年5月26日、愛媛県松山市ひめぎんホールにおいて日本港湾空港建設協会連合会から、当協会の藤田幸洋氏が表彰されました。心からお慶び申し上げます。

代表者表彰



藤田 幸洋 氏

生年月 昭和30年3月

藤建設(株)
代表取締役社長

略 歴

昭和52年4月 東亜建設(株) 入社
昭和55年5月 藤建設(株) 入社
昭和62年5月 同社 取締役
昭和63年5月 同社 常務取締役
平成3年5月 同社 専務取締役
平成4年5月 同社 代表取締役

団体歴

北海道建設協会 理事
稚内建設協会 会長
北海道港湾空港建設協会 副会長
全国浚渫業協会北海道支部 支部長
日本海上起重技術協会北海道支部 副支部長
全日本漁港建設協会北海道支部 副支部長
北海道土木施工管理技士会 理事
稚内商工会議所 常任理事
稚内労働基準協会 会長

平成28年度 (公社)日本港湾協会会長賞表彰港湾功労者賞

永年にわたり、港湾の発展に尽くされた功績顕著な方々に贈られる港湾功労者賞の表彰が行われた。平成28年5月26日愛媛県松山市ひめぎんホールで開催された(公社)港湾協会の第89回定時総会に先立ち、北海道港湾協会の推薦により道内から5名の方が表彰されました。受賞されました皆様には、心からお慶び申し上げます。



遠藤 敏 氏

生年月 昭和24年11月

三ツ輪運輸(株)
常務取締役輸送部長

略 歴

昭和46年 三ツ輪運輸(株)入社
平成19年 同上 取締役就任
平成22年 釧路ワークアクト(株) 取締役
平成22年 三ツ輪物流(株) 取締役
平成22年 三ツ輪エアサービス(株)代表取締役 (平成28年6月退任)
平成22年 三ツ輪運輸(株) 常務取締役 複合輸送部長
平成24年 三ツ輪運輸(株) 常務取締役 輸送部長
現在に至る



矢本 欽也 氏

生年月 昭和29年10月

岩倉建設(株) 土木部技術部長

略 歴

昭和48年 北海道開発局
平成24年 室蘭開発建設部次長
平成25年 北海道開発局港湾空港部港湾行政課長
平成26年 岩倉建設(株) 土木部技術部長
現在に至る



小路 邦夫 氏

生年月 昭和29年5月

(一財)港湾空港総合技術センター
北海道支部事業第二部調査役

略 歴

昭和48年 北海道開発局
平成23年 網走開発建設部 紋別港湾事務所長
平成25年 留萌開発建設部 留萌港湾事務所長
平成26年 (一財)港湾空港総合技術センター
北海道支部事業第二部調査役
現在に至る



澤合 英治 氏

生年月 昭和29年9月

日本データサービス(株)
執行役員技術部長

略 歴

昭和48年 北海道開発局
平成25年 室蘭開発建設部 浦河港湾事務所長
平成27年 日本データサービス(株) 執行役員技術部長
現在に至る



金田 充 氏

生年月 昭和29年7月

(一財)港湾空港総合技術センター
北海道支部事業第一部調査役

略 歴

昭和48年 北海道開発局
平成23年 室蘭開発建設部 浦河港湾事務所長
平成25年 函館開発建設部 江差港湾事務所長
平成26年 (一財)港湾空港総合技術センター
北海道支部事業第一部調査役
現在に至る

(順不同)

苫小牧港西港区－9 m耐震岸壁 全建賞の栄誉に輝く



改良工事状況



改良前の西ふ頭－9 m岸壁の狭隘状況



改良後の西ふ頭－9 m耐震強化岸壁

苫小牧港西港区西ふ頭の－9 m耐震強化岸壁整備事業が2015年度全建賞に選ばれました。地震発生時の物流拠点機能維持が可能になったことや火力発電所から発生する石炭灰の利用で建設コストの縮減が図られたことが評価され、事業を所管する室蘭開建苫小牧港湾事務所は、2011年度の東港区－12m耐震強化岸壁整備以来の受賞となりました。

西港区の西ふ頭は、RORO船航路の拠点で重要な役割をはたしていたが、完成から50年以上が経過して老朽化が進み、施設の倒壊が懸念されるほか、岸壁背後の上屋によるトレーラーの旋回や自動車の積み降ろしに支障を来していました。

これらを解消するため、背後上屋を撤去し、併せて災害発生時の緊急物資などの輸送拠点能力の確保に向けて耐震強化も図ろうと2011年より整備事業化しました。4バースある岸壁を3バースに再編し耐震岸壁を含む2バースが完成し、現在3バース目の改良工事が進んでいます。

我が社の安全衛生管理

株式会社 宮原組 土木部次長 江戸 敦

1. はじめに

当社は、昭和33年株式会社宮原組として創業を開始し、今年で58年を迎え、この間、一般土木工事はもとより、昭和55年からは起重機船85t吊（翔龍）を所有、港湾・漁港整備分野への事業を展開し、現在では起重機船160t吊・クレーン付台船80t吊の2船団を所有し、主に港湾・漁港工事を中心に事業を行っております。一方では国道・道道・町道の道路維持・除雪業務を行い地元の交通アクセス確保に貢献しております。



社屋

当社は、平成12年に厚岸町でいち早く品質マネジメントシステム（ISO9001）を認証取得し、以来「品質の顧客満足」を掲げ、継続的な改善に取り組んでいます。また、地域社会に貢献できる企業を目標に、全社員一丸となって顧客や地域社会に貢献できる企業を目指して、地域貢献に力を入れて取り組んでいます。

2. 安全衛生基本方針

当社は、『会社を支えるものは、人であるとともに、安全である』と認識し、従業員並びに関係請負人の協力のもとに、積極的な安全衛生活動を推進し、継続的に安全水準の向上を図る。』を安全衛生の基本方針とし、具体的には下記のとおり安全管理活動を積極的に推進しています。

①労働安全衛生法および関係法令、社内ルール並びに安全に関する基本ルールを順守する

②協力会社と一体となり、工事現場の安全および衛生管理を向上させる

③社員教育、技術力、施工力を強化することによって、工事現場の安全、効率化を図る

④安全衛生管理計画を的確に運用・実践する

3. 安全衛生管理計画

毎年4月に、作業所長全員で前年度の活動報告と反省を行い、当年度の活動計画について立案し、6月の安全衛生大会で安全衛生計画を発表しています。年間計画ではその月毎の月間目標とそれに合わせた重点管理推進事項を定め活動の基本としています。また、各現場における安全衛生管理計画にはこれを反映した現場の実態に見合った具体的な計画を立て活動しています。

4. 安全衛生活動

①安全大会

毎年6月に全社員と協力会社の参加により全社安全大会を開催しております。今年度は、宮原社長からの訓示、協力会（株宮原組翔龍会）からは三浦会長の挨拶と安全用品目録贈呈があり、リプラス（株）から外部講師を迎えて安全講話を実施し、安全意識の向上を図りました。

また、平成28年度



社長訓示



全社安全大会

安全衛生管理計画についての説明、安全宣言を行い、全社員・協力会社が一丸となり安全意識の高揚を図り、安全目標達成に向け確実な安全活動を実践することを誓いました。

②本社・翔龍会合同安全衛生パトロール

毎年7月・10月の全国安全週間・労働衛生週間に合わせて、社長を先頭に協力会（株）宮原組翔龍会）とともに全現場をパトロールし、現場の良かった点、悪かった点を発表し、取りまとめて各現場に対しての指示・指導・是正・教育等を行い災害防止の強化を図っています。



合同パトロール

③店社安全パトロール

毎月第4土曜日に全現場に対して、安全衛生パトロールを実施し現場設備、作業状況、安全書類の点検・確認をして指示事項があれば改善・是正指示書を出し、改善・是正をさせて災害防止につなげています。

④普通救急救命講習

当社では、2年に1度全社員・全作業員が釧路東部消防組合厚岸消防署から普通救急救命講習を受け応急手当の基本知識・救命処置の手順（心肺蘇生とAEDの使用手順）・止血法その他の応急手当での講習を受けて、現場での緊急事態に対応できるようにしています。



普通救急救命講習

5. 作業所安全衛生管理活動

各作業所では、作業所安全衛生管理計画をもとに、現場の特性を踏まえた作業所安全目標や重点管理項目を掲げ、作業所安全大会、安全教育訓練等の安全行事や危険予知活動（リスクアセスメント）、設備機械の点検等日常の安全管理活動により安全衛生管理活動の強化に努めています。また、リスクアセスメント作業手順を積極的に取り入れています。

6. その他の活動

毎年6月開催の安全大会にあわせて、港湾工事に携わる会社として地域の環境保全に貢献するべく厚岸漁港の清掃活動を実施しております。この活動には当社だけでなく協力業者の方々にも参加をいただいています。

地元の学生に建設業の魅力を少しでも理解してもらうと地元中学生を対象に企業説明会を行い、建設業の役割や仕事のやりがいを生徒に伝えています。また地元の中高生による職場体験を積極的に受け入れています。



漁港清掃



企業説明会



職場体験

7. むすびに

今後も、安全を最優先に考え、現場特性を踏まえた危険箇所を見抜ける職員の育成を充実させ、協力会社との連携を強化し、労働災害ゼロの目標を達成する努力をしていきます。

また、地域社会に必要とされる企業であるため、全社一丸となりこれからも努力していきたいと思っています。

私の趣味

『マラソン挑戦から北海道新幹線開業記念函館マラソン開催まで』

株式会社 富士サルベージ 須田 新崇

「命より大切なものは健康だ！」

そんな言葉をどこかの落語家が言っておりましたが、長寿を得ても病気に苦しみながらの人生は送りたいくないとは誰しもが思うのではないのでしょうか。

私も40歳頃までは暴飲暴食は当たり前、仕事の忙しさを言い訳に運動などほとんどしないという日常を送ってまいりました。それが父が60代で大病を患い、療養生活をするのを身近に見て父のDNAを受け継ぐ者として真剣に健康を考えるようになり、まずは長年、親しんできた煙草をきっぱりとやめ、歩くことから始めました。それが次第に走るとなり、走る距離も2キロから5キロ、10キロと伸びて行きました。10キロ走れるようになるとついつい気が大きくなるものです。

「函館ハーフマラソンに挑戦！」

そして43歳のときに函館ハーフマラソンに挑戦してしまいました。函館ハーフマラソンは当時9月に開催され、スタートは申告タイムの良い順にブロック分けされ、初出場の私は最後尾からのスタートでしたがなんとか2時間10分余りで完走することが出来ました。完走できるか半信半疑であったのでゴールの瞬間は感無量であり、初めて自分を誉めてやりたくなった気分でした。が、翌日の新聞を見て愕然としたのですが80歳の方が私より良いタイムで完走していました。私の闘志にメラメラと火が着き始め、このままでは終われないと私は2時間を

切るのを目標に来年に向け練習を始めました。翌年は2時間02分健闘空しく目標におよばず、悔しくて眠れません。来年こそはとまた練習を続け、ようやく3年目にして2時間を切ることが出来ました。

「北海道マラソンに挑戦！」

実はこの年、無謀にも北海道マラソンにもチャレンジしました。北海道マラソンは8月に開催される制限時間5時間のフルマラソンです。日本で開催されるマラソンは一般的には気候の良い秋から春にかけて行われます。いかに北海道とは言え、8月の札幌は気温30度近くに上り、湿度も高く、マラソンレースの中でも過酷な大会に分類され、その上、制限時間も5時間と一般市民ランナーにとっては簡単なものではありません。この日も気温29℃、人生初めてのフルマラソンはあえなく32キロ過ぎでリタイアということになりました。体の中からエネルギーが枯渇していく感覚を初めて味わいました。そこから乗せられた収容バスの中はとても切なく寂しい気持ちでした。

この年から私の目標はフルマラソン完走に変わりました。フルマラソンを完走するため



北海道マラソン（北大キャンパス内）

にはハーフと違い、多少の計画が必要となってきます。練習においても月間の走行距離を定め、筋トレを加え、体重管理等を行います。私の場合はかなりいい加減にそれらを行い、北海道マラソン完走メダル北海道マラソンに備えました。



翌年、少しでも涼しくという願い虚しく、幾分曇ってはいましたが気温28℃の暑い日となりました。マラソンは自分との戦いです。止めたければいつでも止められます。30キロ過ぎからは暑さと疲労で相当きつくなり、何度リタイアしようと思ったかわかりませんが街頭に点在する「折れない心」の看板を見つめながらネットタイム4時間58分、制限時間ギリギリで完走することが出来ました。

気を良くした私は日本における他のレースにも参加したくなり、宮崎や愛媛でのマラソンにも参加しました。遠方のレースは余裕を見て2泊3日で行きますが、現地での温泉めぐりや名物を食べるのも楽しみの一つです。

「北海道新幹線開業と函館マラソン誘致活動」

全国的にマラソンブームが高まり、著名なレースは大変な人気です。1987年に僅か400人余りの参加者で始まった北海道マラソンは今では募集人数16,000人が募集開始初日で一杯になるほどです。日本で一番人気のある東京マラソンは抽選で参加者が決定されますが、募集人数36,000人に対し10倍以上の申し込みが殺到致します。ハーフの場合は地元のランナーが大半ですが、フルマラソンの場合は遠方からのランナーが過半を占めます。家族や友人を連れだって来るランナーも多く、宿泊施設はどこも満室状態で経済効果の大変高いイベントです。



2016函館マラソン開催決定(函館商工会議所青年部)



函館マラソンPR活動(in東北)

北海道マラソンに挑戦したころ、私は函館商工会議所青年部の副会長を務めており仲間と一緒に地域経済活性化のため函館でのフルマラソン開催運動を始めました。ハーフは行っていたもののフルの開催は予想以上にハードルが高く、商工会議所会頭を説得し、市長への嘆願や北海道警察、陸上協会との協議などを行い、更にはモデルコースの策定をし、沿道のホテルや商店、町内会への説明を重ねました。そして私が青年部会長を務めている時に運動開始から4年の成果が実り、2016年の開催が正式決定致しました。

今年3月26日、念願の北海道新幹線がついに開業致しました。そして6月に高橋はるみ知事のスタートの号砲で北海道新幹線開業記念と銘打った函館マラソンが開催されました。当日は生憎にも風が強く、雨模様の日ではありましたが全国から大勢のランナーが新幹線で函館にやって来て函館の街を満喫していききました。来年も、そしてこれからもずっと多くのランナーが集う街となるように走り続けたいと思います。

イベント

海上から「石狩湾新港北防波堤延伸工事」 施工状況の説明会実施

小樽開発建設部では、平成28年6月24日（金）に石狩湾新港整備に関係する自治体および報道関係者を対象に、北防波堤延伸工事の施工状況説明会を実施した。

北海道の物流を支える重要港湾『石狩湾新港』の北防波堤延伸工事は、「石狩湾新港西地区物流ターミナル整備事業」の一環として、平成25年度から進められており、今年度は、平成27年度に据付した道内港湾では最大級となるケーソンの延伸部で、サンドコンパクション船による海底地盤改良工事を実施している。

（北海道開発局 小樽開発建設部報道提供資料から抜粋）

別図 石狩湾新港北防波堤延伸工事現場施工箇所



整備目的及び工事概要説明

当日は、行政機関8人、報道関係者5人の計13人が参加した。

はじめに、集合場所の東ふ頭で、小樽開発建設部小樽港湾事務所長の今宗紀所長が、石狩湾新港は開港してまだ34年目だが、札幌から最も近く、火力発電所の建設など道内のエネルギー基地としても注目されている。現在、LNG（液化天然ガス）や金属スクラップなどの輸出入での取扱量が増えており、国際貨物船の入港が天候に左右されないよう工事を進めているが、インフラ整備の理解を深めてもらえればと、事業の重要性を説明した。続いて、同事務所の要害紳吾国土交通技官が工事の目的、工程などについて説明した。



工事概要説明（小樽港湾事務所 要害技官）

施工状況説明会

施工状況説明では、小樽開建所有の港湾業務艇「ひまわり」に乗船し、

沖合で施行中の北防波堤延伸工事の現場に向かった。施工場所ではサンドコンパクション船の船首甲板に装備した、高さ65mの3本のリーダーに吊るされたケーシングによる砂杭造成工事が行われていた。

本工事は、ケーソン据付箇所の地盤が軟弱なことから地中にケーシングを貫入し、その中に砂を入れケーシングを引上げ・再貫入を繰り返し、砂の締固めによる拡張された砂杭を369本打設する。

砂杭打設作業はすべてコンピューターが制御する施工管理システムで構築され、打設位置もGPSで確認し、サンドコンパクション船を正確に停船。作業に支障がでないよう潮位データを管理し、船体の潮位変動に伴う補正を行っている。また、揺れないサンドコンパクション船は、乗っていて違和感を覚えるほどだった。



港湾業務艇「ひまわり」から施工状況を視察



操作室での砂杭施工状況説明



船上及び港湾業務艇からリーダー及びケーシングを瞻仰

小樽開発建設部では、北防波堤の延伸工事400mを平成34年度までの予定で整備する計画。本工事にあたっては、事業推進のため一律深度ではなく杭の延長を長短に分けてコスト軽減に努めている。

取扱貨物量が増え、本道のエネルギー基地としての重要性も増す石狩湾新港。今回の施工状況説明会は、地域経済を支える社会資本整備の必要性をあらためて認識する機会となった。

視察した現場は、石狩湾新港地盤改良その他工事で、あおみ・萩原・吉本経常建設共同企業体が施工。工期は平成28年4月11日から8月13日まで。

(記事は、北海道通信から抜粋して掲載しました。写真提供は、北海道開発局 小樽開発建設部)

人工地盤の新ふ頭 完成 ウトロ漁港で供用記念式典とりおこなう

網走開発建設部が平成10年度から着手した「ウトロ漁港ペレケ地区」が、ことし5月に供用を開始した。サケの水揚げ高日本一を誇る斜里町。基幹産業の漁業を支え、水産物の安定供給や食の安心・安全を確保するための新たな物流基地が完成した。

ウトロ漁港は、斜里町を通る国道334号線沿いにある道の駅「うとろ・シリエトク」に隣接している。

オホーツク海に面した知床半島に位置する第4種漁港で定置網漁を中心とする沿岸漁業が行われている。現港地区は用地が約2,000㎡と狭隘。漁の最盛期には1,000トン以上のサケが水揚げされるが、港内・荷捌き用地で運搬車両の駐車スペースを確保できない状況となり作業効率が悪かった。また陸揚げ岸壁には屋根がなく、野天で

の作業のため鳥糞等の異物混入や直射日光等を防止できず、食の安心・安全を確保する上で大きな支障となっていた。これら問題を解消するため、平成10年度から網走開発が新たな物流基盤の整備を開始した。

平成19年度に人工地盤に着手、人工地盤の大きさは17,000㎡、全国的にも先駆けとなる衛生設備を完備したウトロ漁協の衛生管理荷捌き所や斜里第一漁協の衛生管理荷捌き所が稼働している。

人工地盤整備により大型船や遊漁船の十分な陸揚げ場が確保されたほか、運搬車両の駐車場、荷捌きなどの作業を行う十分なスペースを確保。屋根付き岸壁等の整備は、鳥類の侵入や鳥糞などの異物混入を防ぐだけでなく、直射日光を避け鮮度を保つ仕組みとなっている。



テープカットの様子



供用を開始したペレケ地区の新ふ頭

第50回「おたる潮まつり」が開催

半世紀の歴史を刻む、第50回「おたる潮まつり」が、7月29日（金）から31日（日）の日程で開催された。心配された天候の大きな崩れもなく、50回目の節目から市民の関心と呼び、過去10年間で最高、昨年より15万人増の128万人の来場数を記録した。

開催2日目の30日は、市内の花園グリーンロードから

小樽港第3ふ頭までの約1.6kmを踊り歩くメインイベントの「潮ねりこみ」が行われ、過去最大の97梯団、約1万人が参加した。最終日の31日は、5基の神輿が一堂に集まり、全道からの担ぎ手約1千人の掛け声に合わせて観客のボルテージが上がり、祭りは最高潮を迎えた。



約1万人が踊り歩いた「潮ねりこみ」



「潮ねりこみ」が続く小樽駅前通り



祭りを盛り上げる各地域の演舞

潮まつりの潮ねりこみに参加
息の合った踊りを披露
小樽建管と小樽建管

【小樽】29日午後、市内中心部から小樽港まで続く約1.6kmのコースで、約1万人が参加した「潮ねりこみ」が行われた。小樽建管と小樽建管が中心となり、市内各団体の参加も多かった。小樽建管は、約100名の参加者で、約1.6kmのコースを約1時間かけて歩いた。小樽建管は、約100名の参加者で、約1.6kmのコースを約1時間かけて歩いた。

潮まつりは、29日から31日の3日間、市内中心部から小樽港まで続く約1.6kmのコースで開催される。約1万人が参加する「潮ねりこみ」は、小樽建管と小樽建管が中心となり、市内各団体の参加も多かった。小樽建管は、約100名の参加者で、約1.6kmのコースを約1時間かけて歩いた。小樽建管は、約100名の参加者で、約1.6kmのコースを約1時間かけて歩いた。

小樽建管は、約100名の参加者で、約1.6kmのコースを約1時間かけて歩いた。小樽建管は、約100名の参加者で、約1.6kmのコースを約1時間かけて歩いた。小樽建管は、約100名の参加者で、約1.6kmのコースを約1時間かけて歩いた。小樽建管は、約100名の参加者で、約1.6kmのコースを約1時間かけて歩いた。



5基の神輿による「神輿パレード」

今年も小樽港でコンテナを活用した社会実験が実施されました

小樽商工会議所港湾振興プロジェクトが主催者として、昨年に引き続き、コンテナを活用した社会実証実験「HATOBAC.Yプロジェクト」を行いました。

平成28年8月19日（金）～9月11日（日）の金、土、日曜日に小樽港第3号ふ頭基部（小樽市港湾室庁舎横）に、市民等が求める「新たなにぎわいの拠点」を作るため、大小3基のコンテナを設置し行われた社会実験は、港でグルメやショッピングを楽しみながら、にぎわい交流できる場を提供することで、第3号ふ頭基部の商業利用の可能性を探り、市民意識の醸成と継続的な港のにぎわいづくりを目指した取組です。

今年は、40フィートコンテナを改造し昨年も使用した「コンテナカフェPHANTOM（カフェ&バー、16:00～22:00）」のほか、新たに12フィートのJRコンテナを使用した「チマタBAL（立ち飲みバル、16:00～20:00（日曜

日休み）」と20フィートのコンテナを使用した「ハトバGARAGE（雑貨やアート等の物販・展示、15:00～20:00）」の2基が併設されました。

チマタBALでは、小樽の港湾遺産「小樽みなとと防波堤」の写真展も開催。写真は、小樽市総合博物館所蔵の写真の他、小樽開発建設部小樽港湾事務所からも提供し、後援団体の中に小樽開発建設部も入りました。

アルコール類はリーズナブルな価格設定。海を眺めながら飲食できる環境は、小樽ならではの昔懐かしい雰囲気が漂い一週間の疲れを忘れさせてくれました。ちなみにウエイターさん達は素人、地元の社長で皆さんが知っている方達です。この記事が載った時は、今年の営業は終わっていると思いますが、来年も実施されたら、是非、小樽港に足を運んで、海を眺めながらのどかな気分を味わっていただきたいと思います。



市民でにぎわうコンテナカフェ



コンテナカフェPHANTOM

各港で舟漕ぎ大会、 ボートレース開催

釧路港舟漕ぎ大会

第12回釧路港舟漕ぎ大会は8月6日（土）「国際バルク港湾“全速前進”大会」と銘打って開催された。開催場所は幣舞橋と久寿橋間でチーム数は一般の部59チーム、女性の部18チームの77チームが出場した。

競技は漕ぎ手6名、声かけ1名、旗持ち1名の8名が乗船する往復200メートルのタイムレース。午前8時40分の来賓者一同によるピストル宣言から一般の部の予選レー

スが始まった。釧路では少ない真夏日の晴天の中、漕ぎ手は汗だく、応援団は声をからしての熱戦が繰り広げられた。

午後2時頃に女性の部の決勝、続いて一般の部の決勝戦が始まり、女性の部は「漕ぎまくり隊」が3連覇、一般の部は「ラビッツ」が5年ぶりの優勝を遂げた。又、優勝チーム当てクイズ、写真コンテストを実施して大会を盛り上げた。



激しいレースを繰り広げる参加チーム



レースを記録しようとシャッターを切る市民

根室港舟漕ぎレース

7月17日（日）根室港で舟漕ぎレースが開催された。こぎ手6名、声かけ1名、のぼり持ち1名の8名がスワンボートに乗り込み、往復200メートルの距離を漕ぎまくるタイムレース。

一般の部は19チーム、女性の部は8チームの27チーム

が参加し、10時20分から予選が始まった。

準決勝、決勝と根室港のシンボルの弁天島を横目に激しいレースが展開され、結果、一般の部は「風林火山」が3連覇、女子の部の「アフローズ」が3連覇を達成すると共に、優勝回数を9回に伸ばした。



スタート直前のスワンボート



熱戦を繰り広げる参加チーム

苫小牧港はすかっぱボートレース

第8回苫小牧港はすかっぱボートレース（委員長・宮崎英樹苫小牧港建設協会会長）が8月6日（土）、苫小牧港西港区北ふ頭で開かれた。

市内の企業などから26チームが参加し、約200mのコースを5人一組のボートで回り、タイムを競いました。操船に苦しむチームもありましたが選手たちはみんな必死にオールをこぎ、観客からは多くの声援が飛び交っていた。



RORO船背後で競う
はすかっぱボートレース



苫小牧みなとフェスティバル
開会式

ボートレース背後のキラキラ公園では苫小牧みなとフェスティバルも開催され、快晴の中多くの市民で賑わいを見せていた。



タイムレースで懸命にこぐチームメイト

函館ペリーボート競漕

函館港まつり協賛行事の「第8回函館ペリーボート競漕」が7月31日（日）、函館港の若松南ふ頭前で開かれた。幕末にペリー艦隊が箱館に入港した際に、函館奉行が小舟で艦隊に向かった史実にちなんだ毎年恒例のレースで、今年は市内などから54チーム（一般42、女子12）が参加、一般の部と女子の部に分かれ、最高気温29.5度と真夏を思わせる暑さの中、優勝を目指して白熱したレースを繰り広げた。



スタート直前のペリーボート

ボートにはこぎ手6人とリズムを合わせるドラ、かじ取りの計8人が乗船、往復150mのコースで1レース2～3組のトーナメント方式で争われた。参加者は観客の声援を受けながら力いっぱいオールをこいでいた。

今年の一般の部には、当協会の会員企業4社が参加しているが、残念ながら松本組・菅原組・工藤組が1回戦敗退、富士サルベージが2回戦で敗退した。



熱戦を繰り広げる参加チーム

第5回むろらん港鉄人舟漕ぎ大会

磯舟をオールで漕ぎ順位を競う「第5回むろらん港鉄人舟漕ぎ大会」が7月24日、室蘭港中央ふ頭旅客船バースで行われ、職場や友人グループの27チームが優勝を目指して熱いレースを繰り広げた。決勝は「グラッツェ日鋼」が2分20秒38で初優勝した。

往復150mのコースで、1チームはこぎ手6人と艇長、旗持ちの計8人がボートに乗り速さを競った。準決勝には、タイムトライアルによる予選9レースの上位9チームが進出した。

工場群の煙が流れるほど強い横風の激しいコンディ

ションの中、各チームは掛け声を合わせて進路を維持しながらゴールを目指し、予選から2分台前半が出る白熱の展開となった。

準決勝3レースの各1位による決勝は、出場チームで最速の2分16秒01を準決勝で出したグラッツェが終始、安定したレース運びで2位に約50秒差をつけてフィニッシュ。日鋼室蘭製作所生産管理部に勤務する21～35歳の若手メンバーが見事、初優勝を飾った。

(記事は室蘭民報から抜粋して掲載しています)



3艇が競う様子



参加者による選手宣誓



レースの様子



ゴール後の歓喜の瞬間

てっぺんの夏を熱くする 「稚内副港ボートレース2016」開催される

今年で第9回となる「稚内みなと南極まつり 稚内副港ボートレース2016」が、平成28年8月7日（日）、海の駅 稚内副港市場前の稚内港第一副港地区で開催されました。

昨年同様、好天に恵まれた今年の大会は、毎年回を重ねる毎に参加チームが多くなり、最多の35チーム（約400名）がエントリー。慣れないパドルさばきに悪戦苦闘するチームもありましたが、予選からファイナルまで1秒を争う白熱したレース展開が繰り広げられました。

大会を運営する実行委員会は、稚内地元愛育成協議会

を中心に稚内ボート協会や宗谷地区港湾工事連絡協議会、宗谷建設青年会で構成され、多くの地元のボランティアスタッフに支えられています。

当日は、宗谷建設青年会が「土木の日」のイベントとして、建設機械やパネルの展示を行った他、岸壁背後に多くの売店や参加チームのテントが並び、アトラクションとしてマリンジェットの妙技も披露されるなど、同地区には約3,300名が集って終日賑わっていました。

また、当日の夜は、祭りのフィナーレを飾る2,500発の花火が稚内港の夏の夜空を鮮やかに飾りました。



3艇が競うスタート直後の様子



海の駅 副港市場前のイベント会場



悲願の優勝「Fuck'n Crew」 43～44歳の同級生チーム

◎事務局だより◎

北海道港湾空港建設協会

【広報委員会】

- 1) 平成28年 6 月23日（木）
広報誌「北のみなと89号」編集について
- 2) 平成28年 7 月29日（金）
広報誌「北のみなと89号」編集について
- 3) 平成28年 9 月 9 日（金）
広報誌「北のみなと89号」編集について

◎業界だより◎

◎会員代表者の交代

●渡辺建設工業(株)

代表取締役社長 渡部 仁志 平成28年 6 月

●チスイ札幌事務所

技術顧問 斉藤 賢悦 平成28年 8 月

◎広報委員会だより◎

平成28年 9 月現在の広報委員は次表のとおりです。

委 員 長	白 川 隆 司	東洋建設(株)
(部会長)	大 倉 正 憲	勇建設(株)
(副部会長)	東 志 郎	萩原建設工業(株)
	荒 井 直 人	東亜建設工業(株)
	毛 利 照 男	釧石工業(株)
	渡 辺 修 司	(株)菅原組
	石 島 隆 司	近藤工業(株)
	渡 部 優	菱中建設(株)
	大 前 豊	五洋建設(株)
	高 田 稔 年	あおみ建設(株)

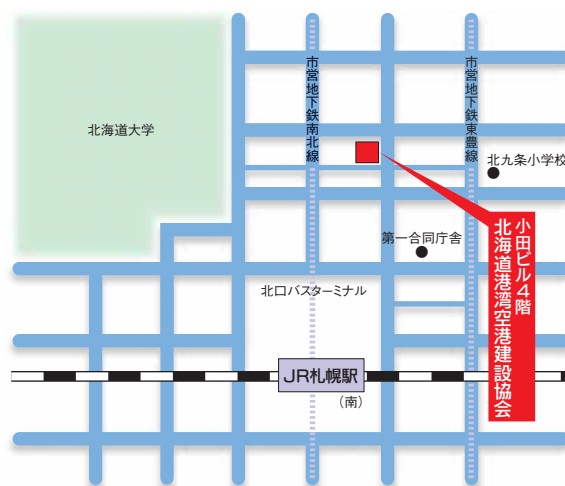


さけの水揚げ



ホタテ水揚げ

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.89

発行年月 平成28年9月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 大倉 正憲
 印刷 (株)須田製版